

2026 FUN&RUN! 2-Wheels

2026/5/15
競技監督

公式通知 No.6

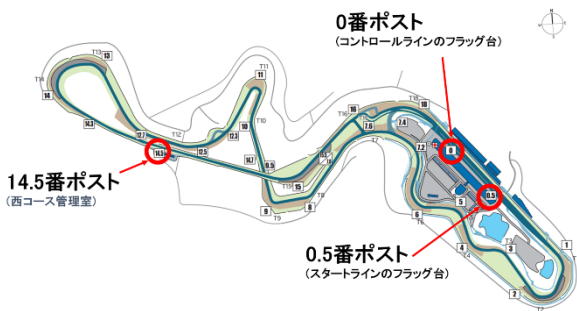
G310 Trophy 宛

【改訂版】ライダーズブリーフィング資料

1. ポスト配置、コースイン・ピットイン時の注意

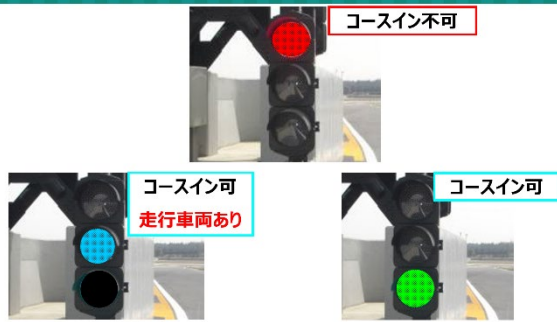
1)

ポスト配置について



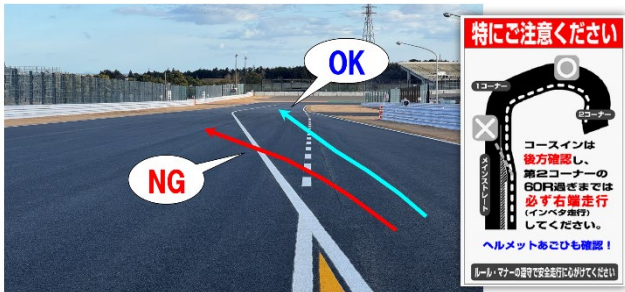
2)

ピット出口のシグナル表示



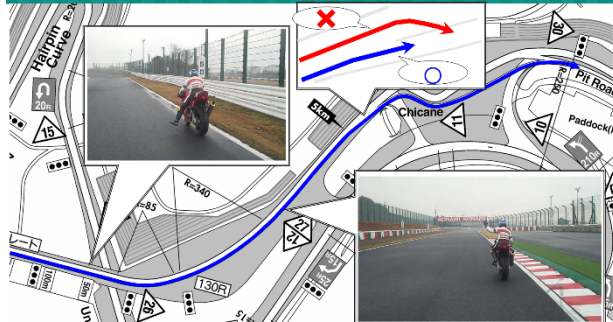
3)

コースイン方法について



4)

ピットイン時の注意

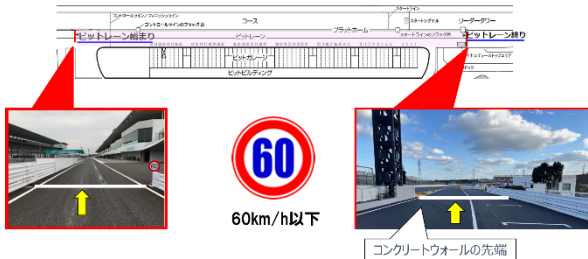


※予選・決勝レースを通して東ショートカットの使用禁止

5)

ピットレーン制限速度について

・ピットレーン



特にピットレーン中間・出口でのスピード超過に注意

6)

スタート練習 «ピットレーン出口付近»



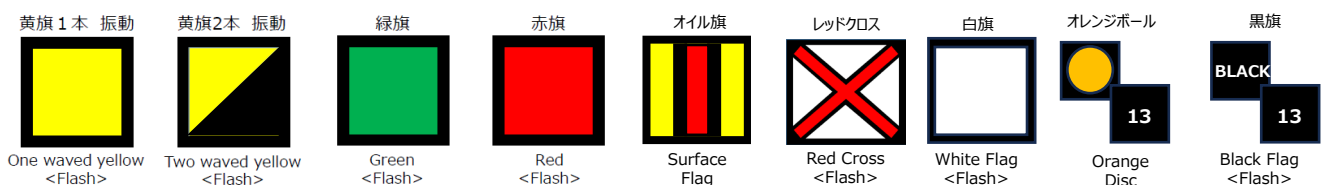
2. フラッグ等について

ライダーは、掲示されるフラッグ・ライトパネルを確認する義務がある。※違反した場合は罰則を科す。

ストレート上でもフラッグやボードの見落としがないように注意すること。

	<p>【黄旗 1 本】 振動表示 表示ポスト前方でトラブルが発生。 減速し、緑旗提示ポストまで追い越し禁止。</p>		<p>【黄旗 2 本】 振動表示 表示ポスト前方コース上にトラブルが発生。減速し、緑旗提示ポストまで追い越し禁止。</p>
<p>■黄旗の基本的な出され方</p>		<p>コースの前方に転倒などの危険な状況が起きていることを知らせています。ポストでは黄旗を振動させて知らせますので、そのポストから追い越し禁止となります。最大限の注意を払いながら危険な状況が起きている地点を通過します。さらに、追い越し禁止は続き、緑旗が提示されるポストを過ぎたら追い越し禁止が解除されます。黄旗の振動に代わりに、イエローライトの点滅によって危険を知らせる場合もあります。</p>	
	<p>【赤旗】 走行中断。減速し、ピットに戻らなければならない。</p>		<p>【オイル旗】 雨以外の理由でコース上が滑りやすい状態の時、提示される。(オイル漏れ、落下物なども含む。)</p>
	<p>【チェッカー】 走行終了。速度を落とし、その周でピットインをすること。先頭でチェッカーを受けた車両が通過するタイミングでコントロールラインのフラッグ台(0番P)及びインフォメーションパネル(スタートライン上)の計2箇所までチェッカーを提示される。ダブルチェッカー防止のため、ストレート走行中でも必ずフラッグ台を確認し、見落としをしないこと。※チェッカーフラッグ提示後、各ポストで黄旗が静止表示される。但し、トップライダー直前に未チェッカー車両が走行している場合は、提示を遅らす場合がある。</p>		<p>【オレンジボール+ゼッケンボード】 ピットまで戻らず速やかにコースアウトし、最寄りの安全な場所に車両を止めること。 ※大量のオイル漏れ等、危険を及ぼす恐れのある競技車両が発見された場合、即当該ライダーに警告するため、旗のみ表示を行う場合がある。</p>
	<p>【白旗】 救急車等の介入車両があり、この介入車両を追い越すまで他のライダーを追い越す事は禁止される。</p>		<p>【黒旗+ゼッケンボード】 当該車両は直ちにピットに戻り、オフィシャルの指示を受けること。</p>
	<p>【青旗】 後方よりベースの速い車両が接近し、追い越される場合に振動表示にて提示される。</p>		<p>【チェッカー+青旗】 ファイナルラップにフィニッシュラインの手前でトップライダーの直前に他のライダーが走行している場合、トップのライダーはチェッカーを意味するが、直前を走るライダーにはもう1周することを示す。</p>
	<p>【緑旗】 コース規制の解除ならびに、提示ポストから黄旗の解除を示す。 レース以外の走行の1周目に各ポストで表示される。</p>		<p>【レッドクロス】 コース上のこの付近において、雨が降り始めたことを示す。 この雨が路面状況に影響を及ぼしている可能性もある。</p>

・ライトパネルの表示例



3. 公式予選について

- 1) 予選方式は計時予選とし、走行時間は 20 分間とする。出走ライダーは自由とし、ライダー交代は可とする。

4. 決勝レースについて

- 1) 決勝レースの周回数は 16 周とする。ただし、WET 宣言が出された場合、決勝レースは 2 周減算される。
- 2) スタート時のスタート補助要員申請の期限は予選終了後 30 分以内とする。
申請方法は「INFORMATION」を確認すること。
スタート補助要員は必ず長袖・長ズボン・シューズ（肌が全て隠れる物、レーシングスーツ及びライディングブーツも可）および 2 輪用ヘルメットを着用すること。グローブの装着は推奨される。
- 3) スタート時のエアバッグ装着補助要員申請の期限は予選終了後 30 分以内とする。申請方法は「INFORMATION」を確認すること。申請がない場合、エアバッグ装着補助要員の待機は認められない。
エアバッグ装着補助要員は必ず長袖・長ズボン・シューズ（肌が全て隠れる物）および 2 輪用ヘルメットを着用し、選手受付時配布のエアバッグ装着補助要員用腕章（白色）を必ず装着すること。

3)

スタート前チェック

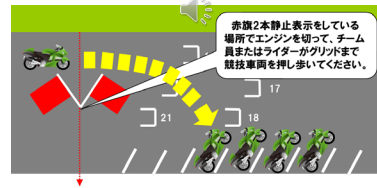
- ・スタート前チェックは時間厳守
- ・実施場所は、**52番ピット**付近
- ・タイムテーブル、スタート進行表にて時間を確認すること。
- ・完了していない場合、決勝レース参加は認められない。

4)

サイティングラップからグリッド到着時について

ル・マン式スタートにおけるグリッド整列は以下の手順で行う。

- ①サイティングラップ周回後、グリッド最後尾付近にてオフィシャルが赤旗2本提示している場所で一旦停止しエンジンを切る。
 - ②その後、車両をチーム員またはライダーが手押ししてピットウォール側の自身のグリッド番号の斜線部へ移動する。
- ※整列させる際は周りに十分に気を付け、ゆっくりと整列させること。



- 5) グリッドにおいてタイヤウォーマーの使用は余熱も含めて不可とする。
- 6) エアバッグは正常に作動するよう確実に装着すること。
- 7) スタート前のエンジン始動は、競技車両を支えるスタート補助要員が始動装置(セル・スターター)を使用して、スタート 3 分前から 1 分前までに始動すること。エンジン始動後は、競技車両後部を保持するのみとする。スタート時に押しがけ、あるいは他人の協力を得て始動させることは合図があるまで禁止とする。
- 8) スタート 1 分前までにエンジンが始動しない場合、メカニックは当該ライダーを車両側へ呼び寄せ、ライダーは車両側へ移動し PUSH ボードが提示されるまでその場で待機すること。
- 9) スタート合図は日章旗を使用する。日章旗は決勝グリッドの中間地点で振り上げられる（17 番グリッド付近）。日章旗が振り上げられたらスタートライダーはコースを横断し、競技車両に駆け寄りスタートすること。スタート時、日章旗が振り上げられる前に白線から足が離れたチームは罰則を科す。
- 10) 決勝スタート後、コンクリートウォールを越えられないスタート補助要員やエアバッグ装着補助要員は、ホームストレートからの退出用ゲートへ速やかに向かうこと。
- 11) ル・マン式スタートでは、特に上位グリッドのライダーは後方からの競技車両との衝突を避けるため、スタート直後は極力コースの右側を走行すること。（スタート直後は周囲の状況をよく確認し、接触等がないように気をつけること。）
- 12) 全車スタート後、**PUSH** ボードを提示した後、アシスタントによる押しがけスタートが許される。
但し、オフィシャルが指示する時間内にエンジンが始動しなかった場合、コース外へ移動が命じられる。
PUSH ボードはコントロールラインのフラッグ台(0P)とスタートラインのフラッグ台(0.5P)で掲示される。
- 13) スタート違反と判断された場合、タイム加算ペナルティが科される。

ペナルティボードはコントロールラインのフラッグ台（0P）

および西コース管理室（14.5P）にて提示される。



5. ピットストップについて

- 1) 走行中は必ず右上腕部に腕章を着用すること。(第 1 ライダー：青色 第 2 ライダー：黄色)
1 名で参加する場合はスタート時に青色を着用し、ピットインの際に黄色に付け替えること。
腕章をふたつ付けての走行は認められない。
- 2) 全てのチームはライダーの登録数に関わらず必ず 1 度はピットインをし、ライダー腕章を付け替えなければならない。
その際必ずエンジンを停止すること。2 人で参加するチームはライダー交代をもってライダー腕章を付け替えたときのみ。
- 3) ライダーが連続して走行できるのは最大 11 周までとする。5 周終了時点から 11 周終了時点までにピットストップし、ライダー交代もしくはライダー腕章の付け替えを済ませること。ライダー交代もしくはライダー腕章の付け替えのためにピットインしたピットレーン上のコントロールラインで規定の時点を迎えてはならない。ライダーが連続して 12 周以上を走行した場合、1 周減算のペナルティを科す。

6. 赤旗時の対応について

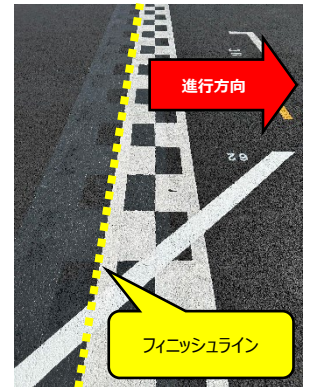
- 1) 決勝時に赤旗を提示する場合、MFJ 国内競技規則 付則 4-24-1 に準ずる。
24-1-2 をケース A、24-1-3 をケース B、24-1-4 をケース C として運用する。
- 2) ケース A： トップ及びトップと同じ周回数を走行していた残りの競技車両が 3 周末満の場合、
当該レースは無効となり、全く新たなレースとして再開する。
ケース B： トップ及びトップと同周回数を走行する残りの競技車両が 3 周以上完走し、本来の決勝レース距離が 2/3 未満の場合、再開後のレースを第 2 レースとして行う。レースの最終結果は両レースを合算し、最大数の周回チームが優勝となる。合算した周回数と同数の場合は第 2 レースの結果が優先される。
ケース C： トップが 2/3 以上走行していた場合は、レースは成立したものとす。
順位は赤旗が提示された前のトップ及びトップと同じ周回数を走っていた残りの競技車両がコントロールラインを通過した週の通過順とする。
- 3) 再開後のレース周回数はピットモニター、放送等で発表される。
- 4) 再開されたレースが再び赤旗になった場合、そのスケジュールを変更する可能性がある。
- 5) 赤旗提示後 5 分以内にマシンに乗って、またはマシンを押してピットレーンに戻ってこられないライダーは再スタートできない。ただし、競技結果が 2 周以下の再スタートでは全ライダーが再スタートできる。
また、東ショートカットを使用してピットへ戻ることは認められない。

7. レース再開手順について

- 1) 再レースのスタートもル・マン式で行う。
- 2) 再スタート手順については MFJ 国内競技規則 付則 4-25-1-8 クイックリスタートが適用される。
ケース B の場合、再スタート時のライダーは、赤旗で中断した際乗車していたライダーとする。
赤旗提示時にピットレーンにいた車両についてはピットインしていたとみなされ、ライダー交代（腕章の付け替え）が認められる。
- 3) サイティングラップからスタート手順が再開され、ピット出口は約 30 秒開放される。
- 4) 申請済みのスタート補助要員およびエアバッグ装着補助要員は規定の服装を着用し、グリッドで待機すること。
ライダーは、グリッドに到着したらエンジンを停止しないこと。
- 5) 車両を押してグリッドに移動することは認められず、サイティングラップに参加できないライダーはピットレーンスタートとなる。
- 6) スターティンググリッドについたことが確認された段階で「スタート 30 秒前ボード」が提示される。
- 7) 以降、通常のスタート手順。

8. 決勝レース終了について

- 1) 鈴鹿サーキットレーシングコースにおけるコントロールライン/フィニッシュラインは右図に示す基準線とする。



9. 決勝レース後について

- 1) 上位ライダーは車両保管を行う。車両保管場所の車検場までオフィシャルが誘導する。
- 2) 表彰式は全レース終了後、ポデウムにて行う。

10. 走行にあたっての注意事項

- 1) スロー走行を余儀なくされた場合、レコードラインを避け、後方に注意し、極力右側を走行すること。
- 2) 重大なマシントラブル発生時、速やかにコース外グリーン奥の安全な場所へマシンを止めること。
- 3) 転倒したらすぐに安全な場所へ退避すること。負傷で退避が困難な場合、大きくアピールすること。
- 4) 可能な限り、オフィシャルの車両撤去に協力すること。
- 5) 転倒、オーバーラン後のコース復帰時は、必ず後方確認を行うこと。
- 6) エンジントラブルや転倒車が出したオイルにより、後続車を巻き込んだ重大事故が発生しているため、オイル旗提示時は路面状況を確認すること。
- 7) 他の車両を追い越す際は、接触のないようにすること。
基本的にレコードラインを走行する者に優先権があり、抜く側は追い越しのリスクを認識しておくこと。
① 追い越した後、レコードラインに戻る際は、抜いた車両のスペースを意識しておくこと。
② 走行ラインを譲る際は、追突事故の原因となる為、急なライン変更や急減速をしないこと。

11. 使用燃料について

- 1) 各銘柄のガソリンを混ぜて使用してはならない。前回使用したガソリンが混ざることのないよう注意すること。

12. その他

- 1) 天候の急変等で、走行スケジュールを変更する場合があります、場内放送等に気をつけること。
また予備のガソリンや工具等は、予めピット前に準備しておくこと。
- 2) 走行時には、必ず車検に合格・登録したヘルメットを使用すること。 ※複数個登録することもできる。
- 3) 車両整備は、オイル漏れやカウルの脱落など車両トラブルがないように徹底して行うこと。
※オイルをコース上に撒いた当該ライダーおよびエントラントに対しては罰則を科す。
- 4) ヘルメットやリムーバーのあご紐、レーシングスーツ、ブーツのファスナー等は完全に閉めること。
- 5) エアバッグ装着義務者は走行中の転倒等でエアバッグが展開した場合、
MFJ 国内競技規則付則 4 10-2-1-7 2) に基づいた運用とする。

以上